

28. 11. 1

佐倉市

教育センターだより

Vol.40

平成28年11月1日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043 (486) 2400 http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0-0_6.html

「フェアプレイ」で生きる

佐倉市教育センター所長 塚 本 学

リオオリンピック・パラリンピックが終わって2か月ほどが経ちました。日本選手の活躍に感動した熱い思いはまだ記憶からさめることはありません。2020年には東京で開催されます。今の感動が消えないうちにその時期がやってきてほしいという気もしています。この感動とは逆に今大会でもドーピングの問題がありました。ロシア選手団の参加の問題、パラリンピックロシア選手団の参加を認めないという問題、ロシア以外の選手のドーピングの問題。東京大会ではこのような問題がなくなることを願ってやみません。そのようなこともあり、「フェアプレイ」について調べてみると、日本体育協会のホームページに次のような記載がありました。

フェアプレイとは「行動としてのフェアプレイ」＋「フェアプレイ精神」である。

「行動としてのフェアプレイ」は、ルールを守る、審判や対戦相手を尊重する、全力を尽くす、勝っても驕らず、負けてもふてくされない等の行動に表れるものであり、「フェアプレイ精神」とはスポーツの場面に限らず、日常生活の中でも自分の考えや行動について善いことか悪いことかを自分の意志で決められること。自分自身に問いかけた時に恥ずかしくない判断ができる心（魂）のこと。

「行動としてのフェアプレイ」は、だれが見てもよいと思われる行為、一方「フェアプレイ精神」は心のあり方によるものであり他人からは見ることはできない。しかし行動と精神は切り離せないものである。

さらに、

フェアプレイ7カ条

1 約束を守ろう

2 感謝しよう

3 全力を尽くそう

4 挑戦しよう

5 仲間を信じよう

6 思いやりを持とう

7 楽しもう

という記載もありました。とても素晴らしい7カ条だと思います。

4年後の東京オリンピック・パラリンピックに向けてスタートした時期だからこそ、子供を育てていく責任のある大人として、この「フェアプレイ」について考えてみてはどうでしょうか。佐倉市の現在の小・中・高校生が選手で出場するかもしれません。ボランティアで参加するかもしれません。観戦して応援する人もたくさん出ることでしょう。この「フェアプレイ」は選手だけのものではありません。学校、家庭、地域での、子供たちの健全な育成のために生かせることですし、子供たち自身が成長していくためにも欠かせないことです。また、子供たちの手本となる大人たちの言動の原点として、心に留め置く大切なことではないでしょうか。

私も子供のころから現在に至るまでスポーツに携わってきていますが、フェアプレイについてそれほど掘り下げて考えたことはなかった気がします。フェアプレイについて考えることができ、改めてオリンピック・パラリンピックに感謝したいと思います。そして、このフェアプレイ7カ条を自分の生き方の指針7カ条としていきたいと思っています。

今回の教育センターだよりには、教育相談基礎講座、全国学力学習状況調査、特別支援学級在籍生徒の中学卒業後の進路に関する情報、佐倉学道德の内容を掲載しております。是非お読みください。

涼しい秋風に高く澄んだ空、何をしても気持ちよい季節となりました。学校や地域で、大人も一緒に活動し、たくさんの楽しさを子供たちに伝えていきましょう。

佐倉市における特別支援学級生徒の卒業後の進路状況について

近年、特別支援学級在籍の中学校3年生生徒に関する卒業後の進路について保護者の方々からの問い合わせが増えています。ここでは、平成27年度の市内中学校の進路状況と保護者からの学校への質疑応答の一部についてご紹介いたします。

中学校特別支援学級在籍生徒
卒業生の進路状況(平成27年度全31名)

進路区分(人)	%	進路小区分	人数	%	知的(人)	自・情(人)
進学 31	100	特別支援学校 高等部	18	58.1	8	10
		公立高校	8	25.8	2	6
		私立高校	2	6.5	1	1
		サポート校	3	9.7	1	2
	100		31	100.0	12	19

特別支援学校の進学先一覧

印旛特別支援学校
 印旛特別支援学校・さくら分校
 湖北特別支援学校
 市川大野高等学園
 流山特別支援学校
 他県特別支援学校

進路先の学校種について

〔特別支援学校〕

- ・専門的な支援が期待できる。職業実習が多く、卒業後の就労に強い。
- ・盲学校や聾学校といったように一部の障害を対象にしている場合もあるため、確認が必要。
- ・療育手帳の取得が必要。

〔全日制高校〕

- ・入学後必要な支援を受けるためには、事前の情報交換や確認作業が必要。
- ・本人にあった学力レベルの学校が選べる。

〔定時制高校〕

- ・全日制に比べ授業時間が短いため、好きな活動に時間を使うことができる。
- ・幅広い世代が通っているため、向き不向きがある。

〔通信制学校〕

- ・対人関係が苦手なお子さんでも、自分のペースで学ぶことができる。
- ・自律して学習を進めるために、保護者のサポートが必要。

〔サポート校〕

- ・中学校までに、つまずきのあったお子さんを対象に、学習機会を与えるための学校。
- ・全ての地域に設置されているわけではない。また名称も地域によって異なる。
- ・発達障害児の支援を実施しているとは限らないが、単位制の導入など自分のペースで進められる制度がある。

よくあるQ&A

Q1 情報収集はどのような方法がありますか。

A 下記のような方法があります。

- ・入学説明会，学校公開，体育祭などの機会を利用する。
- ・ウェブサイトを確認する。
- ・学校や関連機関の相談窓口を利用する。

※お子さんにとって過ごしやすい環境かを見極めることが大切です。保護者だけでなく，お子さん本人一緒に確かめることがポイントです。

Q2 高校への進学の見込みはいかがですか。

A 近年では発達に障害のある生徒の受け入れを積極的に行っている学校もあるため，十分に調査してから選択していくとよいでしょう。

※どのような環境が最適かは，お子さんによって異なります。本人のニーズを汲み取りながら決定することが大切です。

Q3 障害についてオープンにした方がよいでしょうか。

A 高校からは早めに情報が欲しいという声が多数聞かれます。

主に入学前、合格発表後、入学後の3通りが考えられます。いずれにせよ，本人が納得したうえで情報を共有できるようにしていくとよいでしょう。

Q4 受験にあたってどのような配慮をしていただけるのでしょうか。

A 最近では，以下のような配慮例が報告されています。

- ・事前の会場下見 ・別室受験 ・問題を読む際の補助具の使用 ・問題文の拡大コピー
- ・口頭指示を板書してもらう ・面接をグループから個人に変更

※1 漢字のルビふりの報告はありません。

※2 保護者と学校間，在籍校と受験校間での事前の話し合いを成立させることがポイントになります。

Q5 特別支援学級に在籍していると受験に不利になりませんか。

A 公立高校を受験する場合は，不利になりません。あくまでも本人の実力が問われます。

また，調査書には，無記入になる欄がありますが，受験の際に，特別支援学級在籍生徒と通常学級在籍生徒が同点となった場合の判断基準となります。

進路相談に向けて

中学校卒業後の進路決定にあたっては，本人の自尊心の低下を防ぐことやテストの点数が全てではないことを保護者と本人から理解を得た上で，安定して過ごせる環境を選択させていくことが大切になります。そのためには，中学校入学時から3年間を見据えた進路に関する指導や相談を始めることが望ましいです。学級担任や特別支援コーディネーターの先生方は，保護者と本人の相談窓口として積極的に関わるようお願いします。

教育相談基礎講座

教育センターでは、子供たちの持つ様々な課題の解決に向けた教職員の指導力向上を図るために、教育相談基礎講座を開講しています。教育相談の理論や技法を習得することで、教育相談という視点から現在抱えている子供たちの課題をとらえ、解決や指導に生かしていける内容になっています。

〔講座の一場面〕



ミニカウンセリングの理論と実践

カウンセリングを行うためのウォーミングアップ



構成的グループエンカウターの実践風景

エンカウターにおけるエクササイズの一部



構成的グループエンカウターの実践風景

傾聴の仕方、相槌の打ち方、視線の方向など相手が話たくなる。または気持ちよく話せるようにする技法を体験・練習する風景

今年度は28名の先生方が受講しました。子供たちに対して「受容すること」「理解を深めること」「傾聴すること」など、児童生徒理解の基本を学ぶことができたという感想が多く寄せられました。

昨年度より学習指導要領の一部改正で、各小中学校において、「特別の教科 道徳」が実施可能となり、準備が少しずつ進められているところです。その中で「考え、議論する道徳」の転換が重要視されています。「議論する」ことの前段階として、教育相談でおこなうエンカウターやインシデントプロセスを取り入れ、同じ事柄でも人によって様々な捉え方があることを子供たちに体験させてみてはいかがでしょうか。

カウンセリングのポイント

☆子供の話を聴く際に、どのように接していますか。以下の項目はカウンセリングのポイントとなりますので、確認してみましょう。

ちょっと意識するだけで、子供の違う面が見えてきます。

☐理解者になる。 ☐味方になる。

☐心で聴いて、心で応える。

☐情緒・感情に視点をおいた教育相談を行う。

☐一人一人に目を向けて、関わりをもち、対象になる子供の良さを様々な視点から理解していく。

☐子供たちのよりよい理解者になれるよう話に耳を傾け、人間関係を構築していく。

☐会話をするときには、相手に対し、相槌をうったり、笑顔で接したりする。

教育相談では、相手の話を
「聴く」態度がとても重要

佐倉学道徳副読本・教材の活用

佐倉市では、道徳副読本『佐倉の道徳』や佐倉を素材とした道徳教材を活用した授業を実践し、先人の生き方・考え方から学んだり佐倉の歴史・自然・文化や人々の思いに触れたりすることで、ふるさと佐倉への愛着と伝統を受け継ぎ守っていこうとする心情を育てています。

佐倉学道徳副読本

「佐倉の道徳」 先人の生き方・考え方を学ぶ



<小学校版>

津田梅子
堀田正倫
佐藤泰然
西村茂樹
津田 仙
浅井 忠



<中学校版>

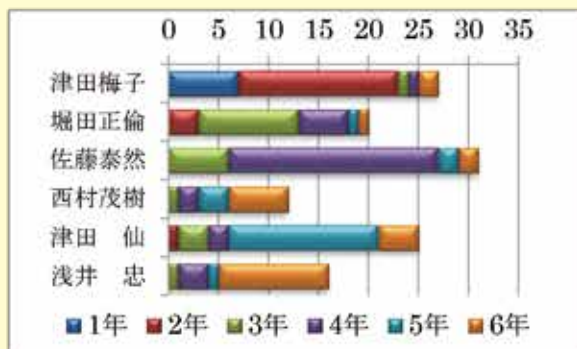
堀田正睦
西村茂樹
西村勝三

読み物資料

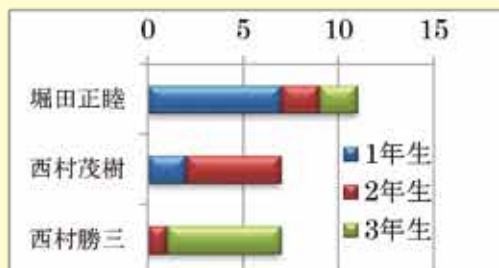
指導案集

掲示資料

○授業実践校数（市内小学校 23 校）



○授業実践校数（市内中学校 11 校）



※全小中学校で『佐倉の道徳』を活用した授業を行っています。（平成27年度調査）

佐倉を素材とした道徳教材

平成28年度から活用できるようになりました

<小学校教材>



『わたしの町さくら』



『まっさきのケヤキ』



『佐倉こどもかるた』



『おじいちゃんの
チュリップ』

<中学校教材>



『町への想い』

読み物資料

指導案

掲示資料

ワークシート

映像資料

教育センターでは、道徳副読本『佐倉の道徳』の活用を推進するとともに、佐倉学道徳教材検討委員会を開催し、佐倉を素材とした道徳教材の開発・作成を行っています。

平成28年度 全国学力・学習状況調査

全国学力・学習状況調査の結果より、佐倉市の児童・生徒の学習状況について全国と比較しながら、傾向の分析及び改善のヒントについてまとめました。詳細は、「概要版」として佐倉市教育センターホームページにアップしています。

(チャートの点線：全国平均 ○：傾向 ☆改善のヒント)

○全国と同程度もしくは上回っており、**概ね良好**である。特に、「話す・聞く能力」「読む能力」について特に高い。一方で、**自分の考えを明確にし**
ながら読むことについて課題が見られた。

☆関連する本や新聞等の複数の文章を比べて読む。さらに、それらを活用して自分の考えを書く活動を行う。

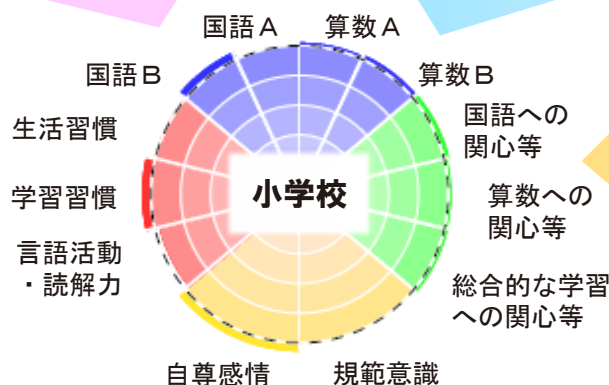
○全国と同程度である。「数量や図形についての技能」は**比較的良好**であるが、式の意味等を**論理的に説明すること**や**割合**について課題が見られた。

☆式の意味等について説明し合う活動を取り入れるとともに、説明に過不足がないか振り返る。

☆割合は、数量関係を整理し、図や数直線に表して視覚的に捉える。

○基本的な生活習慣については、**概ね良好**である。また、**読書が好き**な児童が多い。学習習慣全体は全国と比較して良好であるが、**学校以外での学習時間**に課題が見られた。

☆発達段階に応じた家庭学習の目的・内容・時間等を考え、充実を図る。



○規範意識や道徳意識、自尊感情は比較的高く、**落ち着いた学校生活を送っている傾向**にある。

○各教科の学習について「好き」「大切」「役立つ」「わかる」と回答した割合が高く、意欲的に学習していた。しかし、算数では、考え方を**記述することに対する意識**に課題が見られた。

☆算数の授業の中で、解き方や考え方を記述する時間を確保する。

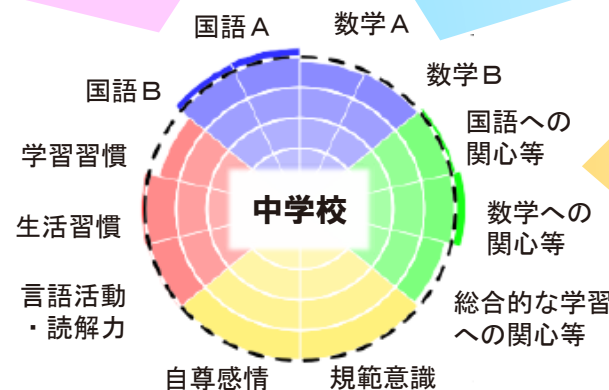
○全国より上回っており、**概ね良好**である。「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」が特に高い。本や文章などから必要な情報を読み取り、**根拠を明確にして自分の考えを書くこと**に課題が見られた。

☆根拠を明確にして話し合ったり、自分の考えを書いたりする活動を行う。

○全国と同程度から下回っていた。「数学的な技能」については同程度であるが、領域における「**資料の活用**」や**記述式の問い**に課題が見られた。

☆根拠や結論を明確にして説明し合うとともに、それらをノートに記述する活動を行う。

☆資料を整理し、傾向を読み取る活動を積極的にを行う。



○規範意識や道徳意識は高い傾向にある。「**人の役に立つ人間になりたい**」と考えている生徒が多い。

○基本的な生活習慣については、**概ね良好**である。**好んで読書**をする生徒も比較的多い。一方で、**家庭学習**の時間や内容、宿題への取組に課題が見られた。

☆実態や教科の特性に応じた家庭学習を、計画的に行う。
☆家庭学習の内容の充実を図る。

○各教科の学習について「好き」「大切」「役立つ」「わかる」と回答した割合が高い。数学では、授業における記述への意識と本調査の記述式の解答への**意識に差**が見られた。

☆数学の授業の中で、説明等を記述するポイントを明確にするとともに時間を確保する。